

渡良瀬遊水地ヨシ焼き & 観光資源化の取り組み

3月16日(土)「渡良瀬遊水地ヨシ焼き連絡会」により例年通りヨシ焼きが実施された。今年は全体の8割以上が燃えて、来訪者は約9,500人。



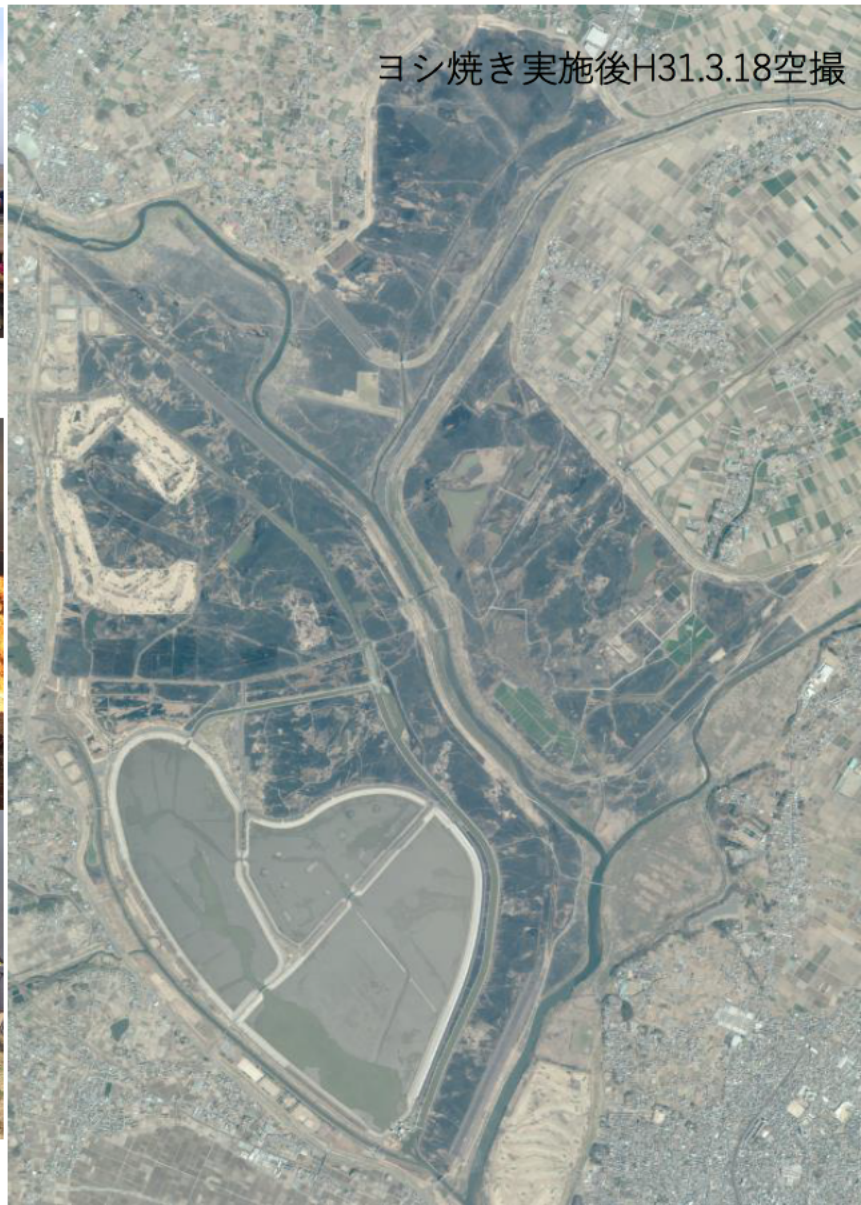
火入れ前の安全祈願祭（小山市）



撮影：田中潔氏



テレビ・新聞など幅広く報道された



ヨシ焼き実施後H31.3.18空撮

ヨシ焼き直後（3/18）



病虫害の駆除及び新たなヨシの芽生えを促進しヤナギなどの樹林化を抑制

トネハナヤスリなど貴重種の生育も促進

新たな芽吹き（昨年4/9）



「渡良瀬遊水地観光資源化」 具体的取り組み

取組みその1：ヨシ焼き体験ツアー企画

- ・我が国最大規模の雄大なヨシ原のヨシ焼きに参加し、**実際に自ら「火入れ」する作業は観光資源として貴重な魅力あるコンテンツ**であり、県内外及び海外から広く集客できる潜在価値を有している
- ・ヨシ焼きに参加する自治会が減少しつつあり、**ヨシ焼き担い手確保が地域の重要課題**となっている



実際に火入れができる「ヨシ焼き体験ツアー」を商品化

- ・「渡良瀬遊水地ヨシ焼き連絡会（自治体）」及び「渡良瀬遊水地利用組合連合会（ヨシズ農家）」と連携し、今後は安全管理や受け入れ体制などについて具体的に検討する
- ・今年3月16日（土）ヨシ焼きで、旅行業界関係者を対象に、ヨシ焼きモニターツアーを実施した→**来年のヨシ焼きで具体の商品化**を目指す

取組みその2：インバウンド需要に向けた体験型エコツーリズム開発

- ・ラムサール条約湿地及び1500haのヨシ原という首都近郊で極めて貴重な大自然、ヨシズづくりや煉瓦窯といった遊水地固有の産業文化など、**体験型ツーリズムの要素が豊富**
- ・平成31年度予算において「インフラを始めとした地域の観光資源のインバウンド対応予算」を獲得（900万円）



- ・**旅行会社との共同企画**を開始
- ・「渡良瀬遊水地保全・利活用協議会」において地域の智恵・魅力を集約
- ・予算を活用し（1）多言語案内板の企画・設置（2）多言語ポータルサイトや多言語現地説明マニュアルの作成（3）インバウンド対応モデルツアーを実施

